

八杉森

五箇山〜杉ノ谷山など
安芸の北側の山並みが
よく見える。

てんごのかわ
山の民は嘗ての皮を
収入源として販売した。
ある日、鷹の森の政天と
いう人が、ツチカを運んで
帰っていると日が暮れてしま
さびしくて帰らなかった。
ちょうど向うから土川へ
皮を買いに行く人に会った。
政天さんは「オウクにも皮は
どーぞある」という家まで
とぎに付いた。
皮買いが「皮はどーぞなら
い」とこの政天が
てんごのかわよ」と
いって ままと下まら
かした話があるそう。

安芸管林署と馬路管林署の
境界を示すコンクリート標が
立っている。

てんごのかわ
とは
わろふび
などの意
政天の
おんがれ

飯場物語
この山道の途中、飯場跡が2つあった。
そのうちの1つに鉄腕アトムのおうす47製
コップが残っていた。
幼い子と家に残し、山仕事に力加
汗を流し、このコップを使うたびに
幼少をなつかしむ父親の姿を想った。
実際は、酒飲みも多々残っていたので
しみじみしたことはなかったらうか
なせか、せつない思いがした。

八杉森の化け物
昔、兄弟の狩師が八杉山へ狩に出かけた。
二手に分かれて狩をしていた兄弟が大きな木の上
にさまざまな鳥を見つけ、何発も撃ったが
どうも当たらない。
異変を感じた兄弟が互にみると、木の山には
何やら鳥の知れぬ 猫ばねのものが
あった。弟は化かされてそれが見えなかった。
兄は「大菩薩黒金」のお守り玉をぬぐ
それを目かけると、猫と叫んで落ちてきた。
それは、頭と尾がハツある化け物で
弟の鉄腕玉が尽きたら襲って食べる
ために狙っていた。
それと八杉山は昔は八尾山と呼ばれ
いたということである。

安芸地方の山は、深く
谷に切れこんで
山頂部になるほど
ゆるやかになっている
ことが多い。

山頂には2016年まで
気象庁の雨量計観測
施設が設置されていた。
今は完全に撤去され
森林に自然復帰
されている。

植の谷林道
魚梁瀬森林鉄道
植の谷線が通って
いた。

馬路に管林署の
研修所があった時代
てんごのかわという
飲み屋が大人気だった。

八杉森の「よび」
昭和の頃か大正の頃かの話。
八杉森は、ハツ(午後5時頃)になるともう
うるうる暗くなるころだった。
ある日、部落の首領が、シバ刈りに来た帰りに
「ほーい、ほーい、いぬぞ〜」と全員が
集まって帰る仕度をした。
ところが誰かが「ほーい、ほーい」と呼ぶ声が
すぐ近くで聞こえるが、姿が見えない。
おそろしく皆な命からがら逃げた。
それは昔からハツ杉へは「ハツ」と呼ぶたう
行かれんという森で、その声は「よび」という。
その山で、災難にあって死んだり
泣いたりした人の魂がぞうぞう
呼んでいるのだという。
(江川の人々体験)

河又柄尾山

参考文献
安芸市の民話

ミモバシラはシソ科の多年草。
冬の寒い朝、枯れ草に
ま、白く花が咲いたように
霜柱がでる。このあたりで生息。

冬は「おんがれ」が
白い花を咲かせて
くれる。

伊尾木川と安田川の分水嶺と
なっている八杉森。
安芸平野からはどか富士山に
似た秀麗な山容がよく見える。
全山人工林。幾万本の苗木を
植えて育てた先人の努力が
とっしりと根ざしている。

横八町の歩道

杉谷

杉谷杉山

小杉谷

「八杉山閣」
1937年に大井小学校へ赴任して
きた沢崎公由によると
当時は西川で、車道を徹夜
して林道開設工事が行われ
人の出入りも激しかった。
大井は教育熱心な地区で
行事のあとは、校長室を
真見伊尾木川と見下ろす「八杉山閣」
冬は八杉の峰を見上げる
「八杉山閣」と称する料亭として
みんなで酒を飲んだという。

欠番の6林班
安芸市内にある国有林は
能押山1林班から杉ノ谷山
52林班まで続いている。
その中で6林班だけが欠番で
存在している。
1929年の安芸市発足に伴う
市界解消のため、1931年に
八杉森6林班の払い下
げが行われたことによる。
市界が施された1929.8.10
安芸市、平野、井口、畑山、土居
川北、伊尾木、東川各村が合併。

藤内小学校は1929〜1941までの短い期間
で、その前身はM15(1882)に興業
名川(なご)の両地区が共同で私立
興業・名川組合立回教授場として
両地区交互に開かれていた。
T12、赤地、賀茂常小学校名川分校を
公立として開校。戦後入植者のために
赤地賀茂小学校藤内分校となっていた。

藤内へ

途中に「おんがれ」が作られている

裏政谷

あせび谷へ

ここまでは横八町の
歩道はしっかりしている

このあたりは谷が
深く歩道も金切り
横断は困難

ユズリ葉

国有林
国有林

終点

人工林

天然林

人工林

シカ

八杉森
1029m
山頂に三角点

南杉谷山

植の谷の瀬

木の間の向うに
澄んだ空と
安芸の町並みが
見えた。2017.12.18

小川山

杉のひげ

昔からの往還

裏正林道

サテ尾

土川越

ミミマ
群生地



飯場跡
酒ビン、コップ
アンカ、保冷帽
布巾などがあ
り、土に置
けている。

ひび割れ
ていた

アムラの誕生日は
4月7日



植谷山



ホホシ



アカガシ
2本

タヌキに化かされなければ
マユモをばさ固めて
山に入ることを教わり
祖父に教えた。

タヌキは人のマユモの
糞と読んで人を化かす。



洗バシラ